

『小さな蛇』

桑原 紀子

5月の半ば、快晴の朝の出来事です。我が家の13才の雌猫が、庭から小さな蛇をくわえて来ました。紫陽花の茂みの辺りで遊んでいたと思ったら、いつの間に帰ってきたのか、居間の真ん中で、赤茶色の小さな蛇と向き合っているのです。

赤茶一色の艶々したような身体で、蛇はとぐろを巻いています。時々猫が飛び掛ると、蛇もS字にくねって応戦しますが、口を開けて威嚇することもなく、ずい分おとなしい蛇です。

庭で1、2度見かけた「高千穂ヘビ」かもしれない・・・。

ミミズを食べる小さな蛇で、鞭のように細くしなやかな美しい蛇です。これ以上、猫の遊び相手は可哀想と思って、庭に放しました。

後で見に行くと、地面に親指と人差し指で輪を作った位の穴が開いていて、そこに潜ったのかもしれない。

今月は高千穂ヘビのことを書こうと思って、居間で撮った

写真を改めて見ると、アレッ首に黄色い筋の模様。高千穂ヘビにはこんな模様はありません。

それから図鑑で調べてみました。蛇の子どもは幼蛇(ようだ)というのですが、今日の蛇はヒバカリの幼蛇でした。ヒバカリとは変な名前ですが、かつて、この蛇は猛毒を持ち、かまれるとその日ばかりで死ぬ、と、思われていたらしいのです。それでヒバカリと命名されたのですが、実は無毒でおとなしい蛇で、ミミズやメダカ、オタマジャクシを食べて生きています。

我が家の庭中にミミズはいるのですが、実は今、アカガエルのオタマジャクシも飼っているのです。しかも水槽は庭に出しっぱなしなので、このオタマジャクシを狙ってやってきたのかもしれない。

水田も少なくなったこの頃、ヒバカリは我が家の庭で、育ち盛りを過ごすつもりなのでしょう。

